



令和3年度

多北高 FRH 通信 第02号

令和3年7月27日(火)

多北高 FRH 推進委員会
探究推進部

2021年度進路探究発表会

令和3年5月11日(火)に、進路探究発表会を行いました。3年生は昨年度の後期にTK+ (総合的な学習の時間)において、自分の興味関心のある分野に関する進路探究を行ってきました。発表した7グループは、学年末に行われた発表会を経て選ばれた学年代表です。また、2年生の2グループに、課外の実組である SSS (スーパーハイスクールセッション) や模擬国連について、体験の成果を発表してもらいました。また昨年度のコロナ禍の制約がある中で、いくつもの課外活動に積極的に取り組んだ3年生の生徒に、その中から得られたものを、特別枠として紹介してもらいました。

発表はパワーポイントを使用して、オンラインで行いました。質疑応答の時間は設けず、質問がある場合はアンケート用紙に記入して後日進路探究委員が発表者にインタビューをして、その結果を発表する、という形にしました。

発表内容

	カテゴリー	学年	タイトル
1	自由研究 (授業内)	3年	認知特性について
2	自由研究 (授業内)	3年	なぜ GAF A は注目されているのか
3	自由研究 (授業内)	3年	効率的な疲労回復法
4	SSS (課外活動)	3年	スーパーハイスクールセッションに参加して
5	模擬国連 (課外活動)	2年	第5回東海地区模擬国連に参加して
6	EMP (課外活動)	2年	エンパワメントプログラムに参加して
7	特別枠	3年	「ムダな学習」の効用
8	自由研究 (授業内)	3年	シャトルの秘密
9	自由研究 (授業内)	3年	隙間時間の勉強も効率化へ～初めてのアプリ開発
10	英語プレゼン講座 (授業内)	2年	空の色の変化

3年生の感想

○実験→考察→実験→結論の流れや、アンケート、実験の材料を用いることは、説得力を増したり、聞いている人を飽きさせなかったりするのに有効だと思った。これから何かを研究する際の参考にしたいと思う。

○実験をしたグループは対照実験を意識していて、きちんと研究しているのがすごいなと思いました。また私の研究や発表と比べて、論理的に考え組み立てていたので、そこを取り入れたいです。



1,2年生の感想

○今回の発表会を通して、発表の構成などの難しさを改めて感じました。先輩方の発表は、自分の伝えたいことをはっきりさせながらも、具体例を用いて、聞き手が発表内容をより身近に感じられた。そのような発表の工夫を、来年私たちも取り入れていきたい。

○それぞれの発表が、話の道筋が分かりやすく、とても納得できるものばかりだった。疑問を持つことや試してみること、考察することの大切さがよく分かった。英語での発表は聞き取れないことが多かったので、私もあんな風に英語を話せるようになりたいし、それだけの英語力を身につけられるようにしたい。

○今まで、自分では考えたことのないようなことについて知る、とてもいい機会になりました。また自分も、生活の中で疑問に思ったこと、不思議に思ったことなどを、深く調べてみたいと思いました。

○進路探究は、疑問がないと探究心が生まれなくて思っていて、正直苦手な時間だった。しかし発表を聞いて、自分で疑問や考えをもつことはすごく大事で、素敵なことだと分かった。知識がないと疑問は生まれなくて思うので、まずは学校の勉強以外にも興味を持って、知ることから始めていきたい。



2年間の探究的な活動を通しての感想(3年生)

○自分の興味のあることや、疑問に思ったことを調べるのはとても楽しかったけれど、それを全く知らない人にも分かりやすく伝えるような発表をすることは、難しかったです。卒業生の方が話をしてくださる機会には、いくつか参加しました。この欄の趣旨とは違うかもしれないけれど、卒業後も様々な形で母校に貢献する先輩の姿に、憧れました。

○探究的な活動を通して、資料や情報を自分で集め、それらから発展させて考えてまとめる、という過程がどういふもので、どのように進めていくか、ということを知ることができた。大学での学びに活かしたい。



○Wordでレポートを作成したり、PowerPoint でまとめを作成したりと、社会人になってから必要なことを経験できたのがよかった。自分たちで考えて実際に企画書を市役所に提出したり、職員の方と話をしたり、貴重な体験をたくさんすることができたからよかった。膨大な内容の探究結果をまとめて、発表する機会も多かったけれど、限られた時間のなかで、聞いている人が飽きないような展開で話をすることが、少しだけできるようになったと思うから、活かしていきたいと思う。探究は楽しいと思えた。